

小児歯科・成人歯科からの難病対策

岡 暁子 福岡歯科大学 教授

米田 雅裕 福岡歯科大学 教授

吉住 潤子 福岡歯科大学 講師

【研究要旨】

小児期に経口からの栄養摂取が障害されると、咀嚼や嚥下など、正常な発育過程で習得されるべき口腔機能に遅れや獲得不全が起きる可能性が高い。医学の進歩に伴い小児慢性疾患患者が成人年齢に達する症例が増加し移行期における医療体系の整備が求められている中、出生後、経口による栄養摂取が不可能であった希少難治性慢性消化器疾患に罹患している小児、移行期、成人期の患者の口腔形態や口腔機能の実態は不明である。我々は、小児歯科・口腔医学からの難病対策を考える上で、まず、希少難治性慢性消化器疾患に罹患している患者の歯・口腔粘膜・咬合を含めた口腔実態の特徴と問題点を明らかにする必要があると考え、実態調査の実施を計画した。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により共同研究機関への出向が難しくなり、実態調査が難しくなったため、先行し、保護者への口腔形態・機能に関する「難治性小児消化器疾患を有する小児の歯科受診実態調査」と題しアンケート調査（別紙1）を施行し、回収分についてクロス集計を行った。

A. 研究目的

希少難治性慢性消化器疾患に罹患している小児、移行期、成人期の患者の口腔形態や口腔機能の実態を明らかにし、歯科医療の側面からのサポートを模索する。

B. 研究方法

対象の抽出：対象は、福岡歯科大学医科歯科総合病院への通院はないため、共同研究施設へ通院する患児となる。共同研究施設である九州大学での研究許可を得て対象患者の抽出を行う。診療録から、以下の項目を抽出する

- ① 患者氏名 ② 生年月日 ③ 住所 ④ 基礎疾患名 ⑤ 経管栄養の有無と期間

方法：

- 1) 抽出した患者のご家庭に電話にて連絡し、アンケート調査の封書を送付する旨をあらかじめ伝えた。
- 2) 説明文書とアンケート用紙を送付する。ご挨拶文（提出≠切記載・別紙参

照）と返信用封筒も同封した。返信用封筒を使って、九州大学病院小児外科へアンケートを返送してもらった。

- 3) 記入が終了したアンケート用紙には、研究番号をつけ、九州大学病院小児外科にてエクセルで集計し、集計ファイルを福岡歯科大学へ送付した。
- 4) から福岡歯科大学へ送付してもらう。

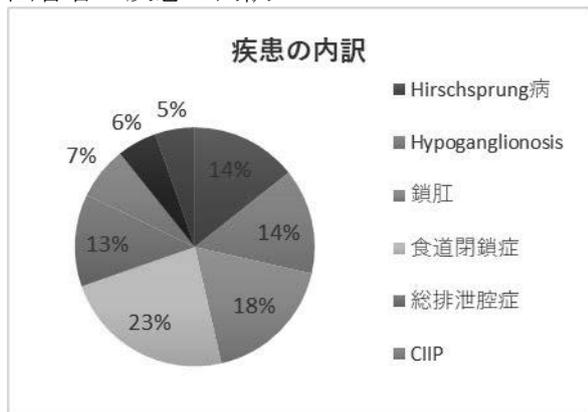
（倫理面への配慮）

本調査は、福岡歯科大学研究倫理審査委員会の承認のもと実施された（許可番号第542号および第562号）。

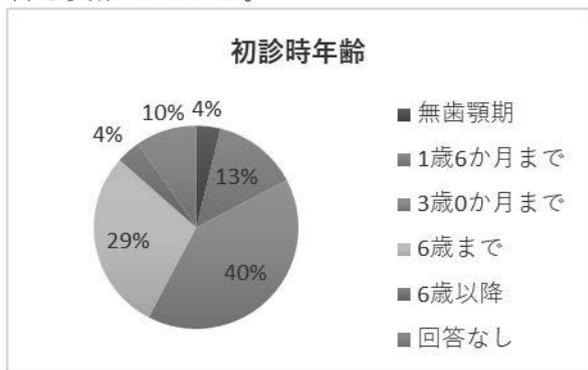
C. 研究結果

- 1) 102名の対象患者を抽出し、アンケートを郵送にて送付。現在56名の回答を回収した（2月1日現在、回収率55%。患児の平均年齢は、11.6歳。

2) 回答者の疾患の内訳



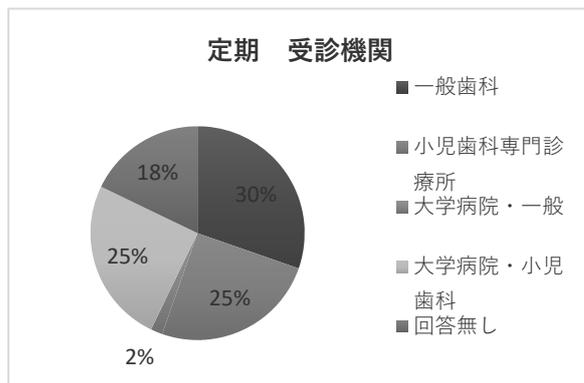
- 3) 歯科検診を受けたことがあるものは、91.0%であり、殆どの患児は歯科検診を受けていた。
- 4) これまでに歯科を受診したことがあるものは、92.9%であり、殆どの患児は歯科受診経験があった。
- 5) 歯科初診年齢の内訳は、グラフの通り。3歳までに50%以上、就学前に80%以上が歯科を受診していた。



- 6) 最初に歯科を受診した機関は、一般歯科が最も多く、次いで小児歯科専門診療所であった。



7) かかりつけ歯科医院があるものは、82.1%であった。またその機関の内訳をみると大学病院・小児歯科の受診割合が、初回と比較して増加していた。



その他の設問については、現在解析中である。

D. 考察

難治性小児消化器疾患を有する小児の歯科受診実態調査を開始し、現在集計を行っている。結果を整理し、これからの課題についてまとめていく予定である。

E. 結論

難治性小児消化器疾患を有する小児の歯科受診実態について調査することで今後の医科 - 歯科連携において有用な結果が得られることが示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし